

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン



<2023年10月号>

196号 2023.10.02 配信

まだまだ残暑が続きますが、秋も深まる10月になりました。最近、次第に対面の会合も増えつつあり、コロナ禍以前のコミュニケーションを久しぶりに取ることは、気分転換に繋がります。

子どもの通っている公立中学校では、今年度より給食の無償化が開始され、親の負担は幾分減りありがたいと感じるものの、少子化対策に実際どの程度寄与する施策になるのかに大きな関心があります。円安、安全保障の急激な変化、少子高齢化など、日本が直面する喫緊の課題は数多くあり、優先順位がつけにくい混沌とした時代です。まずは自分の身近な人との人間関係の構築を大切にする中で、同窓会活動に参加していきたいと思えます。(中学校・高等学校教職員ネットワーク)

## ■同窓会だより

◇生涯学習案内 申し込み受付は10月16日(月)から

- ・講演会「戦後日本のヤミ市表象 ー長谷川町子・手塚治虫・梶原一騎」

日時：11月25日(土)13:00～14:00 講師：山田夏樹(昭和女子大学日本語日本文学科専任講師)

- ・お正月飾り手作り教室(アーティフィシャルフラワー使用)

日時：12月2日(土)13:00～15:00 講師：三宅知子(ハンドメイドサロン「ハーモニー」主宰)

※詳細は光葉同窓会報101号でご確認ください。

◇第31回秋桜祭に参加します テーマ「START」 11月11日(土)・12日(日)

会場は、3号館1階1S02・1S03教室です。同窓生による出店販売や子どもゲームコーナー、展示、動画で光葉同窓会も参加します。ぜひご来場ください。

◇ボストン・ニューヨークの旅(9月13日～18日)

3歳から80代まで31人が参加し、名所巡りやミュージカル鑑賞、野球観戦など盛沢山の旅を楽しみました。第50回光葉同窓会総会を記念し、創立35周年を迎えた昭和ボストンを訪ねました。ブルース・ストロナク新学長やスタッフ、ボストン支部の皆さま、学生と交流し、校内を見学。昭和のつながりがさらに深まりました。



昭和ボストンのレインボーホールにて、学長、スタッフ、ボストン支部の皆さまとともに



ニューヨーク・セントラルパーク内、ビートルズのメンバー、亡きジョン・レノンのために造園された「ストロベリー・フィールズ」にある「イマジン」の碑で

## ◇支部会開催

10月1日 渋谷・目黒支部、高知県支部、愛媛県支部、佐賀県支部

10月8日 山口県支部

10月14日 埼玉県支部

10月15日 山梨県支部、愛知県支部

10月21日 富山県支部、東京都多摩東支部

10月22日 兵庫県支部、熊本県支部

10月28日 神奈川県支部

## ■広げよう光の葉

岸本 洋子さん

1990年 日本文学科卒

### 「長崎でつながる光の葉」

2023年6月3日、長崎県支部会が老舗料亭御宿坂本屋で開催されました。

4年ぶりの支部会を楽しみに佐世保から一番乗りで到着した私の目にまず飛び込んできたのは、玄関に掲げられた「歓迎昭和女子大学光葉同窓会様」の看板と傍に飾られた紫陽花、なんとも風情のあるおもてなしに、私の心はいっそう高鳴りました。その後、続々と到着して来られた皆様も、互いに再会の喜びを口々に語り合いました。私は、初めて支部会に参加した時のことを思い出しながら、その光景を眺めていました。



1990年文学部日本文学科を卒業した私は、地元長崎県で教職に就き、大学時代をともにすごした友が誰もいない長崎で10年以上を過ごしました。知り合いのいない支部会は当時の私にとって、とても敷居の高い場所でした。しかし、勇気を出して初めて参加した支部会で先輩方が温かく歓迎してくださり、それまで参加していなかったことを後悔するほどうれしかった気持ちがまたよみがえりました。

その数年後、私の母が亡くなり、そのことを詠んだ短歌が新聞に掲載されたことがありました。ほんの小さな記事でしたが、それを見つけた昭和の先輩が、その次の支部会の席でそのことを伝えられ、先輩方から温かいお言葉をいただきました。皆様のやさしさと、同窓会の温かいつながりがいっそう深く感じられました。

中学校で教師として過ごしてきた約30年を振り返ると、時代とともに教育の現場も大きく変わり、教師の在り方にもこれまでとは異なるものを多く求められるようになりました。しかし、いつの時代も決して変わらないものもあり、こんな時代だからこそ、それを忘れないようにしていかなければならないと思います。

光葉同窓会で皆様とのふれあいを通して、変わらないものの大切さを学ばせていただく一方で、目まぐるしく変化していく世の中で、昭和女子大学の卒業生が幅広い分野で活躍しているという近況を聞くたびに、私自身も誇らしい気持ちになります。「不易流行」はまさに昭和女子大学の教えそのものであると年々、強く感じます。残りの教職年数がわずかとなってきましたが、人生の先輩や若者から学び続けることを怠らず、自身も進化していこうとする心をこれからも大切にしたいと思います。【End】